

## 中学校・全学年 特別活動（学級活動）

交通

1 題材名 「自転車利用に関する基本的なマナーや交通法規を知り、安全に利用しよう」

2 目標

### II-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用と整備・点検について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。

3 生徒の実態

落ち着いて授業に臨んでいるが、休み時間にふざけて、危険な行動につながる行為をしてしまう姿も見られる。本校生徒の多くは自転車を日常生活で利用している。部活動の遠征時に、自転車で移動をする場合が多くある。また、本校の近隣地域は、狭くて見通しの悪い道が多く、自転車事故が多発している、交通量の多い大通りがある。今年度4月に実施した自転車利用アンケートの結果から、交通ルール指導を徹底する必要があることが分かった。これらを踏まえて、普段の生活の中で、危険を予測し回避する力を身に付ける必要がある。生徒一人一人の交通安全に対する意識の改善を図るとともに、交通ルールを遵守する態度を養っていきたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

学級担任による指導の内容として、自転車の利用マナーや点検に関する話題を取り上げ、日常的に安全に対する意識の向上を図っている。また、部活動の遠征等で自転車を利用する際に、交通ルールに基づいた正しい利用を実践できるよう、部活動顧問が引率するとともに、交通安全に関する一斉指導を行い、定着を図っている。

今年度は、交通安全担当者が作成した、自転車安全利用五則等の交通ルールの基本を学習する「交通安全ハンドブック」を活用して、定期的に継続して交通安全学習を実施している。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 年度初めに全校生徒を対象に、自転車利用アンケートを実施し、自転車のルールやマナーについてどの程度、生徒が意識しているかを把握し、今年度の安全指導の見通しを立てる。
- 学級での話し合い活動や継続的なアンケート調査を実施することで、定期的な振り返りや実施状況のチェックを行い、自転車の安全な利用に関する行動の定着を図る。（通年）
- 学校で自作した「自転車交通安全ハンドブック」を利用して、交通安全学習を継続して行い、自転車の安全利用に関する知識を身に付けさせる。（本時までの活動）
- 交通安全に関するVTRの視聴覚教材、本校周辺の地図、ワークシートなどを適切に活用して危険を予測し回避する力を身に付けさせる。（第1学年）
- 日本サイクリング協会から講師を招き、専門家から話を聞く機会を設定することを通して、生徒に正しい自転車の整備と点検方法の大切さを体感させ、日常生活で実践できるように促す。（第2学年）
- 弁護士を講師として招き、交通事故が起こった場合、加害者やその家族はどのようにして自己の責任を償っていくのか、実例を交えて講話をいただく。専門家からの指導により、生徒の意識を高められるようにする。（第3学年）
- 安全に係る学習内容を家族・近隣小学校児童に伝える活動を通じ、自転車利用に関する基本的なマナーや交通法規の重要性を実感をもって捉えさせる。

## 6 指導計画（全学年・通年）

	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
4月	○自転車利用アンケート	◎生徒の交通安全に対する意識を把握する。
7月	○警視庁交通安全リーフレットを参考に、「自転車交通安全ハンドブック」を作成する。 ○ハンドブックをもとに交通安全クイズを班で作成し、発表する。 	◎自転車の正しい乗り方やルール、マナーについて記入し、交通安全の意識を高める。 ◎作成したハンドブックを後期の安全教室に反映させる。 
夏休み	○交通安全ポスターコンクール 	◎ポスターを作成させることを通して、交通マナーの意識向上を図る。校内に掲示し、ポスターコンクールを実施する。また、地域の小学校周辺などにも掲示し、地域の交通安全への意識の醸成に貢献させる。
10月	○自転車シミュレータを活用した交通安全教室  ○安全学習「自転車利用に関する基本的なマナーや交通法規を知り、安全に利用しよう」（本時） ○スケアードストレイト方式による交通安全教室	◎自転車運転の技能や安全への配慮について確認する。 ◎自転車利用に関する基本的なマナーや交通法規を知り、安全に利用する。 ◎スタントマンによる衝突実演を見学し、危険予測能力を高める。 
11月	○プレゼンテーションの準備	◎これまでの学習を振り返り、交通安全の知識の定着を図る。
冬休み	○交通安全標語コンクール	◎交通マナーの意識向上を図る。
1月	○交通安全プレゼンテーション（各学年・学級で発表）	◎発表を通して、地域の模範となり、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を培う。
2月	○交通安全プレゼンテーション（地域小学校で発表）	

## 7 1学年 本時の展開

## (1) ねらい

VTR視聴を通して、自転車の安全な利用について学び、日々の生活への生かし方を考える。

【II-2-①③】

## (2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のねらい「自転車の安全な利用について学び、日々の生活に生かすこと」を確認する。 【映像を見る前に】</li> <li>○最近（今まで）自転車に乗っていて危険だと感じたことをワークシートに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎VTRをチャプターごとに区切って、学習を進めていくので、あらかじめVTRを止める箇所、ポイントを把握しておく。</li> <li>◎これまでの経験を想起させることで、事故になり得る危険をイメージさせておく。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>【チャプター1～3（6分）を見て】 ○主人公は、なぜ事故を回避できたのかを考え、自分の考えをワークシートに記入する。</li> <li>【チャプター4～5（4分）を見て】 ○自宅の周辺で自転車事故が起りそうな場所を、地図中に丸をつける。さらに、あらかじめ調べておいた自宅周辺の危険な場所について、なぜ危険なのか理由を付けて発表する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎チャプター1～3では、自転車の衝突実験の映像、自転車事故の統計データ、自転車事故の被害者となるドラマから、交通事故の危険や事故のリスクが身近にあることを押さえる。</li> <li>◎チャプター4、5は、事故のシミュレーション映像、事故の7割が起きる交差点の実写映像から、日頃の自分自身の運転マナーを見直させる。当日までに、地図を配布し、自宅周辺の危険な場所をチェックさせておく。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【チャプター6（5分）を見て】 ○事故を起こしてしまった場合、どのような責任を問われるかについて3つ書く。また、主人公のどのような行動が事故の原因となったのか。なぜ、事故を回避できたのかをワークシートに記入する。</li> <li>【チャプター8（6分）を見て】 ○自転車交通安全ハンドブックのP3～5で自転車安全利用五則について確認する。</li> <li>○交通安全VTRを見て、自転車の安全な利用について、感想をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎チャプター6では、高校生が自転車事故の加害者となるドラマを見て、加害者が負う責任の重さを理解させる。生徒が事故の原因、回避方法を理解し、危険予測の重要性について意識を高められるようにする。</li> <li>◎チャプター8では、原則車道走行、二人乗りや並進、携帯電話の使用など、中学生が違反しがちなルールを確認する。</li> </ul> <p>■自分自身の自転車の乗り方を振り返り、改善のための方策について、具体的にワークシートに記述している。 (ワークシート)</p>

## (3) 評価

自転車の安全な利用について理解し、日頃の自転車運転における課題や改善のための方策を考えることができたか。

## 8 2学年 本時の展開

### (1) ねらい

自転車の日常点検や整備のポイントを理解する。【Ⅱ-2-④】

### (2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のねらい「自転車の日常点検や整備のポイントを学ぶ」を確認する。</li> <li>○ゲストティーチャーの紹介を聞く。</li> <li>○自転車の乗り方、機能などについての質問をする。 例「上り坂でのより良いペダルの踏み方について教えてください。」「パンクや空気抜けが簡単に起きない方法を教えてください。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎校庭（雨天時は体育館）に各クラス5班、計15班の隊形で、自転車交通安全ハンドブックを持って整列させる。</li> <li>◎班ごとに自転車1台、空気入れを準備しておく。校庭にカラーコーンを配置、ジグザグ走行用のラインを引いておく。</li> <li>◎あらかじめゲストティーチャーに質問したいことを、ワークシートに記入させておき、授業への意識を高めておく。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーの話を聞き、自転車の点検や整備について考える。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の主要部分の名称とそれぞれの役割や機能</li> <li>・ぶたはしやべる（ブレーキ・タイヤ・ハンドル・車体・ベル）</li> <li>・自転車に乗る際の正しい姿勢、ペダルの踏み方</li> </ul> </li> <li>○自転車交通安全ハンドブックの「大切なこと」ページにメモをとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎普通自転車の基準、違反自転車について理解させる。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コース前に班ごとに移動し、主要部分の点検を行う。タイヤは親指2本で強く押し、空気が十分に入っているか確認する。十分ではない場合は空気を入れる。</li> <li>○点検後、班員全員が正しい乗り方を意識してコースを試乗する。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・左側から乗る。</li> <li>・後方の安全を確認してから発進する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎点検・試乗の手順を、明確に伝え、速やかに活動させる。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最初の隊形に戻り、自身の自転車運転及び整備における課題について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○普段の自身の運転、整備を振り返りながら話を聞くよう助言する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーへ謝辞（代表者1名）</li> <li>○教室に戻り、気付いたこと、心がけたいことをワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質問者を決めておく。</li> <li>■日常点検・整備の方法とポイント、その重要性について、ワークシートに記述している。（ワークシート）</li> </ul>

### (3) 評価

自転車の日常点検や整備のポイントを理解し、実践できるようになったか。

9 **3学年** 本時の展開

## (1) ねらい

自転車事故の被害者、加害者が歩む事故後の生活を知り、交通安全への意識を高める。

【Ⅱ-2-⑤】

## (2) 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のねらい「自転車事故の被害者・加害者が歩む事故後の生活を知り、交通安全への意識を高める。」を知る。</li> <li>○弁護士の紹介を聞く。</li> <li>○ドラマ「あなたの人生も変える加害事故」（約6分）を視聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育館に、いすと自転車交通安全ハンドブックを持って整列する。</li> <li>○加害者やその家族、被害者やその家族が事故後、どのような生活の変化に直面するのか、どのような償いをすることになるのかをテーマに、事前課題に取り組ませる。質問事項もワークシートに記入させておく。</li> <li>○高校生が自転車事故の加害者となるドラマを視聴する機会を設定することを通して、生徒が、加害者が負う責任の重さについて考えられるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○代表生徒（3～4名）による質問</li> <li>○弁護士による講話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の悲惨さについて</li> <li>・交通事故によって人生を狂わされるのはどのような人だったか。</li> <li>・交通事故の裁判とはどのようなものであるのか。</li> <li>・事故被害者やその家族には、どのような困難が待ち受けているのか。</li> <li>・事故加害者やその家族には、どのようにして事故の償いをしていくのか。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自転車事故にまつわる質問について答えることから、弁護士による講話を始める。</li> <li>○生徒が、交通事故にまつわる裁判、加害者、被害者、償い等、順を追ってワークシートに記入するように助言する。</li> </ul> 
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質疑応答</li> <li>○弁護士へ謝辞（代表者1名）</li> <li>○教室に戻り、話を聞いて感じたことや、認識が変わったことについて、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○弁護士の講話後、再度質問をするように促す。講話前に、この時間があることをあらかじめ伝えておく。</li> <li>■講話から考えたことを踏まえ、自転車事故を「自分ごと」として捉え、これからの自転車運転で自身が取り組むことについて、具体的にワークシートに記述している。（ワークシート）</li> </ul>

## (3) 評価

自転車事故の被害者、加害者が歩む事故後の生活を知り、これから自転車運転で自身が取り組むことについて考えることができたか。